

事業報告書（令和5年度）

事業名 リンクw/プロジェクト

団体名 I&I 担当者名 泉田結衣

※活動の様子がわかる写真と説明を必ず添付してください。

1. 活動内容（日時、場所、参加対象者、人数、内容等）

6月：リメイクワンピースの制作 場所：café verde



寄付された浴衣を用いて、夏用のリメイクワンピースを制作した。制作には長く時間がかかり、リメイクワンピースを作るワークショップは難しいと判断した。また、着心地をはじめとした機能性の良いワンピースは実現することができなかった。

7月～8月：リメイクズボン（ステテコ）の制作 場所：café verde
ワークショップ実施のための型作り



(様式第8号)

リメイクズボンはワンピースよりも比較的簡単に制作することができたが、大半がミシンでの作業であるために、子どもを対象としたワークショップとしては不向きであると考えた。ワークショップには、自分たちが教えやすく、作業工程が比較的少なく、かつ簡単である方が、参加者が集まりやすいのではないかと思い、提供するコンテンツを考え直すことにした。

8月31日；金光学園高校にて、地域活動に取り組む生徒さんを対象に出前授業（参加者：高校生5人）

奉還町商店街でのリメイク小物づくりのための浴衣を寄付した。どのようなリメイク小物を作るのかについての話し合いやアドバイスを行った。学生さんはこの後、寄付された生地を用いてリメイク小物を制作し、販売につなげた。 ↓授業の様子



9月：商店街に設置するためのガチャガチャ小物作成 場所：café verde

金光学園での授業を通して、学生さんから出た案を取り入れ、親しみやすいガチャガチャという手段でリメイク小物の認知度を向上させようということで、小物作りを開始した。



(様式第8号)

10月：奉還町商店街を通る人たちを対象としたリメイク小物ガチャガチャの準備・設置
着物や浴衣の端切れを用いて、ヘアゴム・磁石・バッチを作り、ガチャガチャとして奉還町商店街の一角に設置した。一回100円という、手に届きやすい価格で、より多くの人に親しんでいただくことができるようにした。上段にはヘアゴムのみ、下段には磁石とバッチを入れ、性別を問わず利用していただくことができるように工夫した。利用年齢は、子どもから年配の方まで様々であり、外国の方にも興味を持っていただくことができた。



9月～11月：12月に行われるイベントのための宣伝・販売用小物制作

場所：café verde

ここでの小物制作の材料には、浴衣や着物だけではなく、その他として寄付された端切れも合わせて制作した点は新たな工夫点である。



(様式第8号)

12月17日：岡山ユースサミットのイベントにて、リメイク小物を販売（来場者：405名）



性別や年齢に関わらず、多世代の方にリメイク小物グッズに親しんでいただくことができた。着物や浴衣だけではなく、寄付された端切れを利用し、リメイク商品の幅を広げるとともに、衣料ロスの削減につなげた。小さな子どもからの人気も得られた。当初つけていた金額では、売れ行きが悪かったため

に、イベント最中に50円と100円均一という価格に変えたことで、小さな子どもにも手に届きやすい形を実現することができた。

↓ Instagramにて、ブースの紹介と宣伝



↓ ステージでの活動宣伝



1月13日：ミシン講座ワークショップの実施 場所：café verde

講師：大西恭子さん

今後の活動につなげるため、ミシンの指導をしていただいた。



2月8日：くるみボタン作りワークショップ（参加人数：高校生5人）

場所：café verde

くるみボタン作り気軽にできるくるみボタン作りのワークショップを高校生対象で行った。制作してもらったくるみボタンは、設置したガチャガチャで販売し、そして次年度にも外国人に向けて販売する予定である。



① 事業を通じて、参加者にどのような気づきや意識・行動の変容があったか

使われなくなった着物の生地を用いて自分たち自身で好きなデザインのくるみボタンを制作したことで、リメイクするという楽しみ方を実感してもらうことができた。

② どのように学び合いを取り入れたか

高校生が考案したリメイクアイデアを、小物づくりの案として取り入れたり、ワークショップで、次年度に外国人を対象に商品を紹介するための小物を作ったりすることで、参加者に協力してもらう形を取り、お互いの学び合いにつなげた。

③ どのような学びと実践を結び付ける工夫を行ったか

自分たちが講師の方から教わった技術を、ワークショップの場で高校生に伝えた。この活動で制作したグッズのガチャガチャでの販売を通じて、地域の人や、日本文化に関心のある外国人との交流ができた。

3. 取組の成果（事業計画書に記載した事業の目的・目標をどのように達成できたか。事業を実施してどのような成果があったか。）

初めに、本来この活動の講師であった田中さんがご病気になられたために、自分たちだけで行う月一回のペースでのワークショップは限界があり、実現することはできなかった。しかし、日常生活で使用する小物にリメイクをすることで、使用頻度が低く、着用へのハードルが高かったり、もう着用していないという浴衣を持っている人も多く、まだ活かすことのできるはずのものが眠っていたりという状況を少しは改善することができたと考え。また、リメイク品を身近に感じるとともに、本来は活用されなかった衣料品の再利用につながったという面で目標を達成することができた。

また、コロナ禍によって失われた人と人との繋がりを取り戻し、多様な世代が共に前に進むことという目標を、商品の販売やワークショップ、そして高校生への出前授業での繋がりによって築くことができた。

そして、イベントでの告知や、商店街での宣伝により、最終的な Instagram のフォロワー数が 154 人から 178 人と、合計 24 人増加した。（2 月末までの集計）

4. 今後の課題と展望（事業がどのように岡山地域の ESD の取組と持続可能な社会づくりの発展・継続につながるか）

寄付された使用頻度の少ない着物や浴衣生地を用いて、日常生活で使用しやすい小物にリメイクし、そしてそのリメイク活動に高校生が関わったことで、自分たちの中での活動だけに留まらず、活動を広げていくことができた。

今回寄付していただいた着物や浴衣の中で、まだ使いきれしていないものが残っているので、今後もその着物や浴衣を用いて、リメイクを続けていきたい。